

科目名	日本文化史（近世・近現代）					単位	2.0
担当教員	服部 仁						
授業形態	講義	開講期間	後期	配当年次	1	授業番号	4214

●授業のテーマ

出版・貸本文化史

●到達目標

日本文学における文字の位置を理解して、崩し字を読めるようになる。

●学習内容(授業概要)

江戸時代から明治期にかけての図書の流通、つまり書物の出来かたからどのようにして読書されたか、ということについて考えてみる。

近世文学を、作者・書肆（本屋）・読者という関係で調査していくと、読者のみならず作者にしても一番交渉をもったのは、本屋と言われるものの中で貸本屋であったことがわかる。読者は本を読むのに、本は買わずに貸本屋から借りて読み、作者も貸本屋を意識して作品を書くようになる。本屋も本の出版・販売をしながら貸本営業を兼ね、独立営業の貸本屋とともに、直接読者の家庭を訪問してはニーズを満たし、作者にも連絡をとりながらきめ細かいサービスをしているのである。

こうした状況を踏まえて、江戸時代から明治にかけて名古屋にあった日本最大と言われた貸本屋大野屋惣八（大惣）と、三都（京・江戸・大坂）に遅れて本屋仲間ができた名古屋の書肆であるにもかかわらず全国に通用した永楽屋東四郎（永東）について見ていく。大惣は江口家、永東は片野家として現代まで続いていたが、大惣は先年江口元三氏の夫人が亡くなられたので、現在は江口姓を名乗る方はいらっしやらなくなった。

●学習内容(授業計画)

《後期》

1. 江戸時代の読書
2. 出板の禁令
3. 本屋仲間
4. 江戸時代の書肆
5. 名古屋の書肆、風月孫助
6. 永楽屋東四郎
7. 江戸の書肆、蔦屋重三郎
8. 大坂の書肆、河内屋太助
9. 江戸時代の貸本屋
10. 日本最大の貸本屋大野屋惣助
11. 大惣の成り立ち
12. 大惣の発展
13. 大惣に集う文人たち
14. 名古屋の本屋仲間
15. 末期の大惣、坪内逍遙

●準備学習・事後学習の内容

当日の箇所をちゃんと予習し、復習としては、出てきた場所を地図で確認してみることに。

●成績評価方法・基準

平常点（30%）、および筆記試験を主として評価（70%）する。出席するのは当然のことである。

●テキスト（必携）

授業時に新聞記事の写しを配布する。

●参考文献／その他

岸雅裕『尾張の書林と出版』（1999、青裳堂書店）

長友千代治『江戸時代の書物と読書』（2001、東京堂出版）

長友千代治『近世貸本屋の研究』（1982、東京堂出版）

●履修上の注意

特になし。